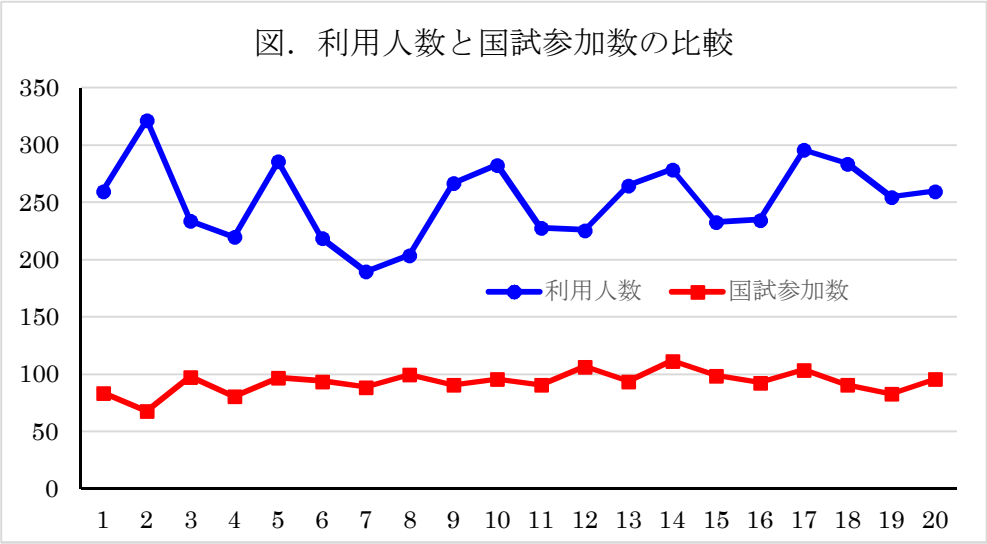
国家試験問題の提示が来館状況に与える影響

依光朋子，嶋沙織，山﨑裕司
高知リハビリテーション学院

【はじめに】大学生の読書離れが進む中，図書館利用者数の減少は深刻な問題である。高知リハビリテーション学院図書館では，来館者数の増加を目的として図書館カウンターにおいて国家試験過去問題（以下，国試問題）と筋肉カード問題（1，2 年生対象）の出題を行っている。学生が国試問題にチャレンジすると図書館ポイントが貯まり，様々な特典と交換ができる。さらに正答するとポイントが貯まり，5 ポイントでアイスがもらえるシステムとなっている。今回，このシステムが図書館への来館状況に与える影響について検討した。

【方法】対象は，平成 29 年 11 月の 20 日間の開館日に来館し，国試問題にチャレンジした学生である。図書館で管理するポイントカードから国試問題にチャレンジした学生の学年とチャレンジ数を調査した。また，その学生が同期間の間に借用した図書冊数を調査した。

【結果】平成 29 年 11 月の来館者数は平均 252 人（総学生数 545 名）であった。20 日間の間に，4 年生 884 名，3 年生 734 名，2 年生 164 名，1 年生 86 名，合計 1,868 名（来館者数の約 40%）が国試問題にチャレンジしていた。国試問題に参加した学生数は，総来館者数の変化とは関係なく一定数を保っていた（図：相関係数-0.151）。

4 年生の 79%，3 年生の 54%，2 年生の 17%，1 年生の 17%が国家試験問題に参加し，学年を追うごとに参加者数は増加していた。10 回以上参加した学生への期間中の貸出冊総数は 871 冊であった。10 回以上参加した学生が借りた本は 6.2 冊/人であり，全体の平均（4.5 冊/人）を上回っていた。

【結語】国試問題の提示は，学生の安定した図書館利用に結びつくものと考えられた。